

目十

和書門			
四	八	七	〇
冊	架	函	號
九	三	冊	架

庫文閣内		和書	
四	八	七	〇
冊	架	函	號
二	三	冊	架

内閣文庫	
番號	和 48780
冊數	93(40)
函號	149 112

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



武德編年集成卷之四十

木村高敦撰

天正十八庚寅年

八月大

○十日 殿下秀吉年ノ刻ニ會津黒川ノ城ニ至

リ玉丁此所ハ奥州ノ都府ナリ士民箠食壺漿メ

瞻仰セリ瑞雲山廣德寺ヲ假ノ決断所トシ奥羽

ノ成敗ヲ沙汰セラル

○無幾程秀吉會津ヲ発シ玉丁干時蒲生氏郷ト

木村秀俊ヲ呼ニテ丁寧ニ政務ノ得失利害ヲ曉

之玉ヲ長沼通十八九里ヲ歷テ五十里宿ノ端
リ一里半ノ劔ヲ凌キ信州屋代ニ赴キ上州堺笛
吹峠ヨリ武州川越相州東郡田村ヨリ東海道藤
澤屋代宿ヨリ駿河國端ニ至リ玉ヲト屋代宿ヨリ駿河國端ニ
○十八日 奥州大崎ノ城主大崎左衛門督茂隆
ハ近年伊達政宗ト戦テ彼麾下ニ屬セスト云ハ
氏聚樂ハ入貢セス小田原ハ泰陣ナキ科ヲ称シ
今月初ニ秀吉ヨリ領知悉ク没収セラレ今日中
新田ノ居城ヲ避テ小野田ニ退リキ爰ニ七ケ日
逗留シ旅行ノ設ケヲ成シ 帝都ニ登リテ千本

ニ寓居シ歎訴スト云ハ 氏許容ナク蒲生氏郷ニ
附屬セラル陪臣ト成ス是人ハ斯波左京北家兼
カ後胤世々奥陽ノ藩鎮タリ慶長ニ戌戌年以後
ハ上杉景勝ニ仕テ
○九日 秀吉駿州清見寺ニ至リ和歌ヲ賦ス其
小序ニ曰ク

東夷征伐のため天正十八年三月の初免は、
越後守より、駿河乃公清見寺小野乃ぬ
か乃地ハ尾系徳小して御守ノ保の程系
甲子徳満乃月留士の言根乃名眼あめ

眺を減りしもの奥海に次座前也
ききふしきの花乃多を覚悟かよ
おみくまきく覚悟しむるもあひ日
まらうぶかー乃多ひきあひけ
みちの行くまてゆきめくまひ徳
し〜玉氏と志〜の〜か〜ふさう
形〜あ八月は何〜ゆ〜かの寺は
つきゆりきんハ苗寺乃大輝をを
福利の家旨とつき凡倍とのゆる
んさ〜と感〜て書院文よ免〜

〜〜〜
え〜花の梅〜
み能因〜かまひ〜
乃音かりい何〜せ〜
ゆふ

清見寺ゆ〜あふえはる花の文れ
い〜お〜も〜た〜り〜あ〜お〜う

亦の浦の眺を〜

名あ〜あ〜田子北浦信立か〜

〜〜も〜た〜て〜ん〜か〜乃〜志〜

尚寺依の事也當知外石之相遠
條全了令寺納者也

天正十八年

八月廿日 秀吉

清河書

法興寺

○廿二日 秀吉駿府ニ至リ玉ノ新守護中村式
部少輔一氏饗應ス當國安部郡井宮ノ郷瑞龍寺
ハ秀吉ノ妹 神君ノ簾中ニメ在世ノ時佛諸ノ
地也簾中當春逝クニ依テ秀吉悲涙淺カラス使

僧ヲ呼テ寺領ノ願章ヲ賜リ南明院光堂ノ追福
ヲ修セラル

當寺山林井木石可伐採并寺家門前法役
今免疎平山屋敷ハ費文ノ如也
並ニ系全了令寺納光室總旭如善
提丹相遠寄納ノ旨勤仍亦可者忘
悞ノ者也

天正十八年

八月廿二日 秀吉

清河書

瑞龍寺

○廿三日 秀吉駿陽田中ヲ歴玉フ時今ニテノ
城主高カ河内守清長カ妻子未タ在城セシカハ
使トメ堀田若狭守一氏ヲ城中ニ遣ハシ清長今
般内府ヨリ武州岩付ノ名城ヲ授ケラレ早ク汝
等彼地ニ赴クヘシトノ命アリ清長カ妻則堀田
詢之躬ツカラ銚子ヲ取テ盃酒ヲ勸メテ是ヲ
謝ス是ヨリ恒例トメ秀吉ハ清長カ妻ヨリ毎年
土産ヲ進上スト云々

○神君今般關八州ヲ領シ玉フニ依テ冬遠ノ舊

臣カ所領ヲ八州ノ内ニテ授ケラレ各如恩セラ
ル然レ氏駿甲信ニケ國ノ先方ノ族ハ新屬タレ
工ハニ其舊知ヨリ穀高減少ス

一上野箕輪城十萬石 井伊兵部少輔直政

一上總小滝城十萬石 本多中務太輔忠勝

一上野館林城十萬石 神原式部太輔康政

一相模小田原城四萬石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野小幡領宮崎二万石

一上野碓氷城三万石

一上野鹿橋城三万石

一上野藤岡城三万石

一上野白井二万石

一上野大胡二万石

一上野吉井二万石

一上野右馬助康成

一上野菅沼小大膳定利

一上野松平之郎太郎康元

一武藏騎西二万石

一武藏松平周防守康重

一武藏

本多豊後守廣孝

牧野右馬助康成

菅沼小大膳定利

松平之郎太郎康元

武藏騎西二万石

武藏松平周防守康重

武藏

上野白井二万石

上野大胡二万石

上野吉井二万石

上野右馬助康成

上野菅沼小大膳定利

上野松平之郎太郎康元

武藏騎西二万石

武藏松平周防守康重

武藏

上野

上野

上野

上野

上野

一上總内一万二千石

駿陽先方衆十

一武藏奈良尻羽生蛭川一万二千石

一武藏

一武藏

一武藏

一武藏岩付城二万石

一武藏此外浦和一万石

一武藏

一武藏

一武藏

一武藏

一武藏

一武藏

一武藏

高カ河内守清長

内藤孫次右衛門家長

岡部内膳正長盛

諏訪安藝守頼忠

諏訪安藝守頼忠

諏訪安藝守頼忠

諏訪安藝守頼忠

一武藏尽城一万石

一武藏赤松一万石 松平主殿助家忠

一武藏河越城一万石 酒井河内守重忠

一武藏羽生一万石

太久保治部大輔忠隣

一武藏本庄一万石

一武藏信州先方衆

小笠原掃部助信嶺

一武藏内一万三千石

一武藏久野三郎左衛門宗能

一武藏東方一万石

一武藏松平丹波守康長

一武藏上野那波一万石

一武藏松平和泉守家兼

一武藏总ノ内一万石

信州先方衆

一武藏保科甚四郎正光

一武藏八幡山一万石

松平玄蕃頭清宗

一上野松山一万石

松平内膳正家廣

一下總相馬一万石

後復木氏土岐

一武藏深谷一万石

菅沼山城守定政

一相摸其繩一万石

松平原七郎康直

一武藏深谷一万石

本多佐渡守正信

一下總佐倉領一万石

本多佐渡守正信

一上野松山一万石

一下總菅戸一万石

信州先方象

木曾千二郎義就

一上野阿布一万石

菅沼新八郎定盈

○菅沼家傳 = 神君嚮 貢稅 吏彦坂小刑

部直通 冬州野田 定盈 米邑ノ穀高ヨ尋

子玉ヲ知ニ小刑部 其邪ニ之テ僅カ六百貫ト

稱天ニ是ニ對當カ爰ニ於テ其舊領ニ三増倍ニテ

一 万石ヲ賜フ此時其禄甚多減少之家臣離
散不ト云云

一 伊豆薙山城一萬石

○ 藤原内藤公左衛門信成

○ 神君ヨリ往年信成ニ與カハ士數十騎ヲ附

屬セリ其内ニ下村助兵衛江坂市藏服田又

二郎長井弥左衛門淺井久兵衛石田九藏近藤

九郎左衛門兒玉傳兵衛安藤清藏岩瀬介右衛

門以上十人ヲ以信成カ家臣トセリ

一 上野三藏五千五百石

一 松平五左衛門近正

○ 此近正ハ松平源次郎家系カ一族ニ大參州

設樂郡大代ヲ領スル先年武田カ爲ニ領知

ヲ侵畧セラレ則家系カ陳代ニ云臣下ニ准ス

ル上云今度再ヒ米邑ヲ賜フ

一 武藏川越ノ内五千人

一 酒井右兵衛大夫忠世

一 上野布川五千人

一 松平勘四郎信一

一 伊豆梅繩五千人

一 伊豆市原郷 五千石 石川日向守家成

一 伊豆市原郷 五千石 石川日向守家成

一 伊豆市原郷 五千石 石川日向守家成

一 武藏石戸 五千石 阿部伊豫守正勝

一 武藏石戸 五千石 阿部伊豫守正勝

一 上総裳原 五千石 牧野讃岐守康成

一 上総奈化川 五千石 大久保治右衛門忠佐

一 武藏入間下総海老谷 大内 五千石 立玉

一 高木主水正清秀

一 武藏柄間 五千石 高木主水正清秀

一 武藏中野 五千石 内藤四郎左衛門正成

一 下総佐倉領 五千石 山本帯刀成氏

一 武藏久志羅井 五千石 山本帯刀成氏

一 武藏久志羅井 五千石 山本帯刀成氏

一 下総佐倉領 五千石 山本帯刀成氏

一 武藏見賀尻 五千石 本多縫殿助康俊

一 武藏見賀尻 五千石 本多縫殿助康俊

一 武藏見賀尻 五千石 本多縫殿助康俊

一 武藏河越領三千石 西郷孫九郎家負

一 上野内野五千石

一 相摸土肥五千石 三宅弥次兵衛正次

一 上總立井五千石

一 相摸中部佐間五千石 永井右近大夫直勝

一 武藏雀丘五千石

一 相摸中部佐間五千石 松平紀伊守家信

一 武藏河越領三千石 青山常陸介忠成

一 武藏雀丘五千石

一 相摸當麻五千石 神谷弥五郎宗弘

一 武藏菅浦五千石

一 相摸當麻五千石 内藤弥五郎正成

一 伊豆下田五千石

一 武藏菅浦五千石 柴田七九郎康忠

一 下総小弓五千石

一 伊豆下田五千石 户田三郎右衛門忠次

一 武藏河越領三千石 西郷孫九郎家負

一 武藏河越領三千石

一 武藏禮羽三千石 酒井與七郎忠利

一 武藏比企三千石 設樂甚三郎貞通

一 上總小井戸三千石 本多作左衛門重次

一 上總勝浦三千石 植村土佐守泰忠

一 下總小南三千石 松平三郎四郎定勝

一 上野新川桐原三千石

一 武藏太田部三千石 稻垣平右衛門長茂

一 武藏比企三千石 服部權大吏政秀

一 武藏比企三千石 渡辺半藏守綱

一 下總飯沼二千石 後名忠右衛門

一 上總山口武藏稻毛峯郷二千石 松平外記伊呂波

一 上總山口武藏稻毛峯郷二千石 坪内喜太郎利定

一武藏ノ内千石

高木善次郎正定

○本多中務大輔忠勝新息ノ地小多喜ハ入部ニ
先亡土岐彈正少弼頼定入道慶岸カ臣ヲ召拍工
ル彼頼定同國万喜ニ在城セシカハ世ニ万喜少
弼ト称シ武畧ノ聞ヘテ心工ハ忠勝是ヲ尋訊フ
処舊臣等カ曰慶岸常ニ房州ノ里見義高ト兵ヲ
締ヒケルカ態ト軍事ニ懈リ敵ヲ欺カテ爲ニ舞
臺ヲ飾リ踊リ好メリ且居城ノ虎口ヲ明替ニト
メ果テス舩着ノ岸嶮シキヲ平夷トス里見家ノ

枉木大膳時細此謀ニ陥リ万喜ニ攻来リ輒ク舩
ヨリ陸ニ騰ルトキ慶岸城上ニ飾リシ紙旗ヲ給
旗ニ立替ルト均シク古門ヨリ逞兵不意ニ突シ
テ忽敵ヲ撃走シム枉木大ニ敗ス是ヨリシテ里
見家再土岐カ領知ニ臨ム事ナキ由語りケレハ
忠勝聞テ土岐ハ謙信信玄ニ劣ラナク人傑ナラ
ズト殊ニ歎羨シテ每度舊士ニ先主ノコトヲ尋
テ問フ時ハ万喜殿ト称シ小多喜辺ニ彈正矩繩
ノ城若ノ跡ヲ見テ城築モ功者ナリト感シ是
ニ倣テ後年関ヶ原軍ノ時忠勝カ也ノ蹴出シ廣

夕關ニ及ニテ早ク兵ヲ立ルト云ヘリ江戸ノ城
主遠山左衛門景政カ甥遠山丹波直景及真田隱
岐信尹神君ノ誓ヲ江城ニ引入工ヘ其功ヲ賞
シ一倍ノ加恩ニテ西人ニ一萬石宛賜ル処ニ各
功ニ誇リ辞メ受スシテ御當家ヲ退ク後ニ兩
人活ニ赴キ秀吉ヘ歎訴スルト云ヘ氏評客十カ
リシカハ各奥州會津ニ往テ蒲生氏郷ニ仕テ真
田ハ慶長ニ戊戌年以來神君ヨリ五萬石ヲ賜
ハリ勤仕セシム

○或曰秀吉ヨリ頃日松下嘉兵衛之綱カ領知

○六千石ヲ改メ遠州久野九千石磐州ノ内千
石總テ一萬石ヲ授ケテ是秀吉弱歳ノ時之
綱ニ仕メケル工ヘ十リ秀吉一柳豆州カ戦死
ヲ憐ニテ第四郎左衛門直盛ヲ以テ後嗣トシ
尾州葉栗郡黒田ノ城ニ萬石ヲ賜ハリ從五位
下ニ叙シ監物ト改メ尾州秀次ニ附屬セテ
○朔日秀吉洛陽ヘ凱旋ト云
○八日甲陽ノ浪客山中義濃女勝享年六十九
歳ニシテ卒ス其子主水久行ハ當時御家人タリ

○十八日 秀吉聚樂ノ城下毛利右馬頭輝元カ
館ニ來臨アリ 其伯父隆景ヲ以テ小田原ヨリメ
近臣ニ批テ是ヲ希フニ十リ
新堂ノ殿閣羨ヲ尽シ饗應ノ結構言語道断ナリ
吉光一朝一振ノ太刀駿馬置美服二十領白銀千
枚金茶碗銀ノ臺金ノ盆紅糸三百斤白糸二九ヲ
獻ス
○是月 狩野右京重信入道法印永徳享年四十
三歳ニメ卒ス 此父民部入道松榮一
十月小
○十四日 伊達政宗累年粉骨ヲ尽シ是ヲ得々

ル奥州ノ内數郡ヲ削ラレ憤リ甚々シク奥羽ノ
國民ヲ促シ一揆ヲ起サント欲シ今月十四日ヲ
以テ期日トス然ルニ八月以來景勝羽州ノ田畠
ヲ亂シテ六江ノ地ハ大谷刑部少輔カ從士檢地
ヲ遂ル所ニ郷民難澁ノ旨アリシヲ大谷カ臣權
威ニ慕リ三人ヲ斬テ五人ヲ禁錮ス於是庶民怒
リヲ奈シ期日ヲ待ス當月上旬一揆勃興シ大谷
カ勢五六十人ヲ殺ス鍋倉四郎ヲ將トシテ其人
數二千許増田ノ館ヲ要害トシ是ニ篋ル今日景
勝一万二千餘兵ヲ以テ取圍ム処ニ一揆若干後

詰之景勝カ浅黄扇ノ馬捺ヲ目掛旗本ヲ撃破ラ
レトス然レモ上杉ノ練兵伍ヲ乱サス奮ヒ戦ヒ
後援ノ凶徒悉ク敗レ討捕首數千五百餘級ニ及
ブ景勝勢死亡スル者五百餘手負者千十リ
○十五日 増田ノ砦降ル上杉先隊藤田能登信
吉謀テ降人皆刺髪ナセ劔戟ヲ押入取テ輕卒二
百餘人ヲ以テ守衛ナセ翌年迄大森ニ禁錮シ景
勝ハ大森ノ城ニ屯シ由利仙北所々ノ經界ヲ亂
不利家モ餘多起ル一揆ヲ鎮メ奥州ノ擧地ヲ沙
汰ス

○九月五日 大森ヨリ一揆ノ城郭藤田信
吉一時攻ニ采取景勝旗本組ヲ以テ菅野ノ砦ヲ
攻ルト云ク
○九月六日 菅野ノ砦降ルシカハ是モ刺髪ナセ
坂田ノ城ニ禁錮ス時ニ兼テ景勝カ臣本城越前
繁長カ居城庄内大浦へ昨夕ヨリ凶徒襲ヒ来ル
吉アリシカハ忽後詰ニテ城兵ト採合是ヲ伐崩
シ五百七十三人ヲ討捕又藤嵩ノ城ヲモ一揆是
ヲ采取景勝城代栗田永壽カ臣酒井新右衛門同
極之々等ノ勇兵ヲ討捕然レモ永陣殊ニ擧地ノ

大任ニ依テ上下疲勞ニ且深雪道路ヲ埋ルニ一
壓一勢ヲ差置来春攻屠ラント欲シ景勝越後ハ
兵ヲ班ス処ニ凶徒程ナク城ヲ避渡ニ退ク
○木村伊勢守秀俊俄カニ二十万石ヲ賜リ大ニ
侈リ葛西大崎先方ノ士ヲ拍ハス新夕ニ相聚ル
其臣皆苛酷放逸ニメ封内ノ民庶且先主ノ舊士
等憤リニ堪スシテ檉山氣仙東山ニ一揆勃興セ
シカハ伊勢守是ヲ征スヘシトテ葛西郡登来間
ノ城ヲ奪シ其子弥一右衛門秀望カ大崎古川ノ
城ニ赴ク所是又城ヲ出テ父ノ安否ヲ聞ニ爲ニ

登来間ニ往ントシテ途ニ相遭フ時ニ在々所々
潮ノ満シカ如ク蜂起シ大崎古川ノ一揆登来間
古川ノ兩城ヲ陥シ通路ヲ断ケシハ父子詮方十
ク家臣成合平左衛門カ佐沼ノ城ニ楯籠ルト云
ハ氏糧食乏シク葛西大崎一統ニ悉ク旌旗ヲ靡
カメ自己城砦ヲ陥シケルニ木村父子進退途
ヲ失テ漸會津ハ此由ヲ達シケレハ民郷則
神君ハ注進シ佐沼ノ後援トメ躬ツカラ出軍セ
ント欲ス

○十一月大

○四日 秀吉ヨリ取領十六万石ノ印章ヲ堀秀治ニ賜フ惣高二十九万石此内残テ十三万石ハ溝口村上兩旗下ノ領地ナリ

於此領地如左ノ如ク在馬ノ替者知テ拾六万

石俵江目録列紙ニ授申年全令知并村ノ目録也

溝口伯耆守友人為其力也其友ハ江相濟

天正十八年十一月四日 秀吉

○五日 蒲生氏郷此間出軍セシト欲スレトモ猪

苗代迄三十里ノ間深雪道ヲ埋ム工ハ漸ク昨宵ヨリ數郡ノ人夫鞋ニ換テ掛ナセ蒲旺巾ヲサセ

肩ヲ並ニ踵ヲ接ニ海道ノ雪ヲ一面ニ踏セ其上

ニ席蓐ヲ布テ騎兵三千雜兵一万餘ニテ猪苗代

ニテ出張ス時ニ伊達政宗カ害心ナク知テ彼

臣片倉景綱カニ春ノ城ヲ壓ニ為ニ田丸中務少

輔具政ヲ須賀川ノ城ニ殘置ナク

○七日 氏郷既ニ先陣ヲ政宗カ封内録田本所

ニ進メ政宗手合トシテ出陣スニ昔催促スル

工ハ止ムトヲ得ス信夫郡飯坂ニ出張シ異心ナ

キ跡ヲ顯サントス

○八日 氏郷二本松ヨリ大森ノ城下ニ至ル 政宗

モ又旗ヲ進ム

○十日 秀吉ヨリ北條氏直高野山ノ住居嚴寒

堪カタクアルニ撰河内國ノ間氏直便宜ノ地ニ

迂ルヘキ旨 神君迄達セラレ則米津清右衛門

清勝ヲ以テ氏直ニ告ラレ氏直下山ノ紀州天野

ニ至テ閑居ス

○十六日 氏郷大崎ノ堺松森ニ屯ル 政宗ハ

吉岡ニ陳シケルカ氏郷勇銳凍々トシテ吉岡ニ

至テ軍議ス時ニ政宗害心ヲ狭ムト云ヘ氏郷

武備嚴整タルニ其謀計相違ス

○十八日 氏郷軍ヲ進ム途中鹿間中新田ノ西

城逃亡ス氏郷中新田ノ城ニ入テ休息ス

○十九日 氏郷高清水ノ賊城ヲ攻ント軍ヲ出

ス然レ氏政宗病ト称シテ先陳ニ臨ニス後路ニ

扣ヘ虚ヲ窺フ工ヘ五手組六手組七手組ヲ路ヘ

繰テ火砲後ニ備ヘ尾ヲ撃ハ頭ヲ以テ當ル長蛇

ノ陳ニテ政宗ヲ壓ヘ進ニ行処ニ名生ノ賊城ヨ

リ不意ニ氏郷カ先隊ヲ襲フ蒲生源左衛門郷成

是ヲ撃破リ追番テ二三ノ九ヲ兼取シカハ氏郷
躬ツカラ戈ヲ採テ旗本ノ兵ヲ以テ本城ヲ拔テ
五百八十餘人ヲ斬獲ス此時城兵ト前後ヨリ立
狭テ氏郷ヲ撃亡サント政宗進ミ来リシカ疾ニ
城陥リ且蒲生カニ備其嚴整ナルコトヲ見テ術
ヲ失ヒ氏郷屯ノ危ニ野陳ヲ設ケ古河松山ノ敵
徒城々ヲ奔テ走リ氏郷名生ノ城ニ指筈ル処ニ
其夜政宗カ從士須田伯耆忍ヒ来ツテ彼野心ヲ
告ル然メ佐沼ノ寄手氏郷カ後援スルコトヲ聞
テ退散シケレハ木村父子名生ノ城内ニ使ヲ馳

テ後諾急ナルコトノ敵ノ圍ミヲ免ルコトヲ謝
スト云々

○此ノ日氏郷佐沼ノ城内糧米絶タルト聞
テ軍士三百人ヲ遣シ木村父子ヲ迎ヘシム父子
城ヲ避テ今日名生ノ城ニ著シ氏郷カ後援ヲ謝
メ紅淚ヲ浮ヘリ政宗モ頓リニ使節ヲ以テ聊カ
害心ヲ含ナレ旨陳謝ス氏郷然ラハ近境宮崎ノ
敵城ヲ屠ルヘキ由下知シケレモ政宗ハ一揆ト
志ヲ通スルコトニ空シク兵ヲ収ム神君ハ氏郷
カ告ニ依テ忽奥陽ニ御榮向アルヘキ旨關八州

一觸促ナレ魁將ナレニ結城冬河守秀康朝臣其
麾下多賀谷及國士宇都宮那須太田原大關福原
茂野千本岡本伊王野々率テ柵原式部大輔康政
ヲ先鋒トシ急ニ出軍ヲ催ナレ浅野彈正少弼長
政ハ大畧奥州ノ土地ヲ紀シ其上ニテ甲斐信濃
駿河ノ前代人租税ヲ記シ歸路ニ赴ケルカ駿府
ニ於テ奥州一揆ノ勃興スルヲ聞其臣浅野六
左衛門ヲ會津米澤一遣シ長政ハ是ヨリ武陽ニ
赴クキテ神君ニ軍旅ノコトヲ窺ヒ奥州一進発
ス

○晦日 神君ノ先鋒柵原康政ニ秀吉ヨリ書牘

ヲ賜フ

然奥州一揆表一揆今略記ヲ示シ中ニ之ニ
對シテ所ナラズ辛勞ニシテ汝表ニ事ニ之ニ指度ハ
其ハ以テ湯井深正伊達左京大夫金澤少將
對シテ汝令意ナラズ成敗ハ御幸市ノ御不
了如ハ人知ル事進ラズ下ニ之ヲ以テ
○土家原古江流石ノ多ク河川多ク恙ナリ石流
事ハ可汗要ニ公當市下中河ノ事也

十一日 海防考吉

佛系或於本補もの

十二月小

○上旬秀吉ノ使節石田治部少輔江府ニ下向
シ先神君ノ奥州へ御進發ヲ勸メ夫ヨリ水戸岩
城相馬ニ至リ彼ニ將ヲ牽テ伊具直理岩田口へ
攻入ントシ且尾州中納言豊臣秀次ニ大兵ヲ
添テ奥陽ノ夷賊振ヲ断葉ヲ拵メ征伐スヘキ由
秀吉下知セラレ

○中旬 浅野彈正少弼榊原式部大輔奥州二本
松ニ至ル所ニ氏郷カ後援ニ驚キ佐沼ノ寄手離

散シ木村父子名生ノ城ニ赴キ氏郷ト是ニ雪中
ニ兵ヲ會津へ収メトス然レ其中間政宗カ
領知ニシテ害心ヲ含ムノ訴人アルニ暫ク名
生ニ滞留スル由ヲ聞テ両將ヨリ此由ヲ政宗ニ
告シ所ニ大ニ憂苦シ忽ニ本松ニ赴キ色々陳防
セシム長政カ曰足下叛ク丁無シハ伊達藤五郎
成實片倉小十郎景綱ヲ氏郷へ送り其實ヲ顯ハ
スヘシト政宗許容シ米澤へ帰り彈正少弼ヨリ
此趣ヲ氏郷ニ達スル処則許諾スト云然ル処ニ
暫ク日ヲ歷テ政宗ヨリ片倉一人ヲ名生ノ城へ

送りケレハ氏郷天ニ怒リ即渠ヲ故ニ遣ニ政宗

カ言下ニ慶約スルナリニ本松ニ注進スル

○十八日 教下秀吉ヨリ書ヲ羽柴秀次ニ投セ

テハ

急度深筆ノ字方石田信統書ハ以テ去共

方字跡云々云々由能ク江越ノ実事ニ

由日ノ事ニ入リ皆家康到白川若原ニ

至ル方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

方字跡ハお移々又家康岩殿ニ至ル

秀吉の御用

○十九日 秀吉の御用

○二十日 秀吉の御用

○廿一日 佐竹義宣従四位下侍従に任叙す則

水戸ノ侍従ト称ス

○廿八日 秀吉ノ吹捧ニ依テ 台徳公従四位

下侍従ニ御昇進アリテ元ノ如ク武藏守ヲ兼任

シ玉ヲ

○廿九日 大谷刑部少輔カ奉書奥州名生ノ城

ニ到着シ秀吉ノ命ニ依テ成田下總守氏長カ娘

名ハ月急ニ上洛アラシム

則逆旅ニ於テ會津以下知セシメ又長途ノ費用等

丁寧ニ沙汰シ氏長カ臣吉田和泉以下凡百七十

人ヲ以テ彼娘ヲ守護シ上京ヲ催スト云

大ニ恐怖シ伊達藤五郎成實後上野

兩人昨日大崎ヲ発シ名生ニ赴クノ旨アリ

○今年 本神君ノ命ニ依テ故園崎邊歸信康若大

姫君ヲ以テ古河ノ城主小室原兵部少輔秀政貞

子カ嫁シ玉ヲ奉進ス

○酒井右兵衛大夫忠世ヲ 台徳公ノ輔臣トセ

○レ此後任雅
樂頭

○太田新六郎重政五百石ヲ賜ハリ御家人ニ列
不時ニ年十八歳是人ノ中真ヲ袒太田左衛門大
夫資長入道道灌カ長子ヲ六郎左衛門資康ト云
フ二男ヲ大和守資高ト稱シ江戸ノ城ニ居シ北
條氏綱ノ掣ト成ル資高カ二男ヲ源六郎資十稱
シ無雙ノ大力ナリ怒メ北條氏康ヲ恨ミテ永祿
ノ頃上杉里見ニ謀畧シ氏康ニ敵シ遂ニ佐竹ニ
倚頼シ入道ニテ武庵ト云フ天正九年己未月十
二日五十一歳ニシテ卒ス或ハ新六郎其子ノ新

六郎重政當時モ佐竹ニ附屬スルニ樂奇ニ隨テ
弱年ト云ヘ凡度々軍功アリ後ニ重政カ妹ハ
神君ニ仕ヘ寵ヲ得テ水戸黄門頼房郷ノ准母ト
シテ号英勝院是也水戸候ハ紀陽頼宣郷ト同腹
娘ノ産スル所ナリ
○遠州堀江ノ住士權田織部泰長ニ神君ニ從テ
江府ニ來リ來邑ヲ賜ハリ貢賦ヲ掌ラシメ輕卒
五十人ヲ預ケテ其子小次郎モ饗ニ命ヲ蒙
リリ昵近ス後年天下一統ニテ再々七遠州ノ舊
知ヲ賜フ

○織田信雄ノ舊臣中山民部勝時カ子猪右衛門
勝政^{母ハ水野右衛門}荒川長兵衛守世今川ノ浪
客飯高主水貞政同弥五兵衛貞次等ノ諸州ノ勇
士武江ニ来リ勤仕スル者繁多ナリ

○関八州ノ落魄ノ徒武名スルハ悉ク御家人ニ
列ス其人物勝量フ一カラス間宮若狭細信同十
左衛門頼次新左衛門直元左衛門信盛傳右衛門
元重富永主膳重吉小幡次郎左衛門正俊加藤左
衛門次郎正胤飯田四郎左衛門重次若林和泉直
則山田伊賀直安難波田因幡憲次根岸長兵衛定

仍等早ク幕下ニ候ニ且昵近ノ族カ子弟都筑藤
十郎昌重小宮山喜左衛門宣正本多主膳正家藤
川右衛門飯室内藏助正則ヲ始若干食禄ヲ授ケ
テ

○甲州ノ秤並守隨兵三郎ト云フ者多門傳八郎
カ許ニ来リ井伊直政ニ授ケ関八州黄金百銀綿
糸等ノ高賣ニ權衛ヲ用テ其子ヲ許望スル
ノ如恩許ヲ上印章ヲ賜フ云々

○松下源太左衛門長則享年七十八歳行年卒
ス是ハ今川ノ麾下ニテ後ニ其子嘉兵衛之綱

神君二仕一當時秀吉二屬又此所也

○或曰水野弥吉康忠中頃三四郎改以寛八

左衛門卜氏二遠州以町司以リ之カ頃年

神君入御勅氣ヲ蒙以リ貨殖ヲ業トシ樽屋之

四郎ト称又今度和州奈良以産奈良屋市右衛

門貨殖ヲ業トシ此トナリト云ク其後同

在關門親政初在關門立九左衛門信盛傳在關門

此亦滿所請至因藤崎並渡中後關和身縣也

新開等重平亦好喜式部氏也其後主難也

武德編年集成卷ノ四十終

